

休憩 午後4時33分

再開 午後4時38分

○委員長（横尾秋洋君） 休憩前に引き続き会議を開きます。河川課が来ています。部長から紹介してください。

○建設部長（熊手寛明君） 皆さん、お疲れさまです。建設部長の熊手です。

本日は、3月議会の建設環境常任委員会におきまして河川課の所管事務報告、県営鷺田川・県営高尾川の河川改修工事について説明をさせていただきます。

この件につきまして、説明のために出席している職員を紹介いたします。東原河川課長。

○河川課長（東原一広君） 東原です。よろしくお願いします。

○建設部長（熊手寛明君） 湊崎係長です。

○河川担当係長（湊崎雄貴君） 湊崎です。お願いします。

○建設部長（熊手寛明君） よろしくお願いします。

○委員長（横尾秋洋君） では、説明願います。課長。

○河川課長（東原一広君） 県営鷺田川・高尾川改修工事についてであります。

1、県営鷺田川・県営高尾川の状況、2、河川整備計画の変更につきましては、続けて説明をさせていただきますがよろしいでしょうか。

それでは、1、県営鷺田川・県営高尾川の状況。

平成24年度より福岡県が進めている高尾川・鷺田川の改修事業の概要を示しております。事業区間は太宰府市の赤岸堰から上流へ約2.1キロを計画しております。現在は、バイパス平面図左岸の護岸工事に着手し、河川断面の拡幅工事を行っております。

次に、家屋の撤去と代替地の状況です。緑色で示している移転対象の家屋につきましては補償契約が完了しており、2月には家屋撤去まで完了しております。移転対象者で代替地を希望される方も新しく家屋を建築され、生活を始められております。県が2月末から河道拡幅の工事に着手しました。

次に、浸水被害の状況。御笠川水系では、平成11年6月に発生した激甚災害を契機に、それまで計画の基本としていた工事实施基本計画を見直し、平成14年5月に河川整備基本方針を、平成17年度7月に河川整備計画を福岡県が作成しております。御笠川本川の整備水準は向上し、再度災害の抑制がほぼ達成できています。

一方、鷺田川や高尾川等の支川においては、平成21年度以降、局所的短時間豪雨の発生

により頻繁に浸水被害が起きています。そのため、いまだ整備が不十分な支川に対する重点的整備が重要な課題となっています。そのため、これら支川の整備を位置づけるべく、今回、御笠川水系河川整備計画の見直しが進められているところです。河川整備計画検討の過程において、平成26年12月19日に福岡県が住民説明会を開催いたしました。

2、河川整備計画の変更。

今回の計画見直しでは、御笠川本川とともに新たに鷺田川・高尾川の整備を計画に位置づけられています。青の区間が従来区間の整備区間で、赤の区間が新たに整備計画区間に位置づけるところです。鷺田川・高尾川の赤岸堰から上流2.1キロになります。整備計画の変更案は、河床掘削、河道拡幅や橋梁の改築、分水路、及び鷺田川・高尾川の合流地点処理等を行い、河道水位の低下、浸水被害の軽減を図ります。なお、分水路につきましては、現河道や周辺土地利用状況等を踏まえ、地下河川を整備します。

鷺田川多々良橋付近のイメージの横断図です。

高尾川水道橋付近のイメージの横断図です。

以上が、現在、福岡県が進めている御笠川水系河川整備計画案の見直しの内容です。この計画が策定されることにより、重点的に整備されることとなり、さらなる事業の進捗が見込まれます。

以上になります。

○委員長（横尾秋洋君） 説明を受けました。質疑ある方はどうぞ。

大石委員。

○委員（大石 泰君） この鷺田川のイメージというのは、鷺田川というのは市役所の向こうにいておる。

○委員長（横尾秋洋君） 課長。

○河川課長（東原一広君） 鷺田川の場合は、法務局がありますけども、あそこの細い道をすうっと鷺田川に突き当たったところら辺が多々良橋になります。そこら辺の拡幅のイメージがあこの図面になります。

○委員（田中 允君） 図面が小さいけん見にくい。大きくして。それか、資料ばくれんね。そしたらわかりやすい。字が見えんたい。

○委員（佐藤政志君） 場所がよくわからんもん。

○建設部長（熊手寛明君） ここが西鉄に行く道です。ここが橋口バス停の橋で、これから上が県営の高尾川、これが県営の鷺田川、ここから上流が市営の鷺田川になります。さっき横断図が出ておったのはここぐらいのイメージです。

- 委員（大石 泰君） ああ、そこね。そして、高尾川の……。
- 建設部長（熊手寛明君） 高尾川のイメージは、大賀酒屋のところに水道橋というのが、皆さん御存じかと思います。よくつかるところです。
- 委員長（横尾秋洋君） 今度つくり直すところですか。
- 建設部長（熊手寛明君） はい。あそこのところのイメージ図が下にもう一つ川をつくるようなイメージを、今、検討しておるところです。
- 委員（大石 泰君） 大賀さんの駐車場のところですか。
- 建設部長（熊手寛明君） はい、そうです。これは、県のホームページに載っています。必要だったらこれはお出しして大丈夫なんで、私どものところにお見えになった出します。
- 委員（田中 允君） それ持ってきてやって。
- 建設部長（熊手寛明君） はい。
- 委員（田中 允君） 暗渠の図面はまだですか。
- 建設部長（熊手寛明君） それはちょっとまだ。済みません。
- 委員（田中 允君） 暗渠の図面をちょっと拡大して。さっき出とったろう。二重になった暗渠があったろう。何かそこら辺の図面が出てる。その上と左んところが字が見えんやっただけん意味のようわからんけんさ。
- 委員（佐藤政志君） その下たいね。
- 委員（大石 泰君） 上が川やろう。
- 建設部長（熊手寛明君） そうです。
- 河川課長（東原一広君） 高尾川になります。
- 委員（大石 泰君） 大賀さんの近所の川たいな。そして、その下に地下何メートルか知らんけど、地下10メートルですか。
- 委員長（横尾秋洋君） 課長。
- 河川課長（東原一広君） 高尾川の河川の一番川の底になりますけども、そこからおおむね10メートル下のところに直径5メートルほどの地下河川というのが考えられますというこのイメージが発表されております。
- 委員長（横尾秋洋君） どの辺から下げていくの。場所はどこからどこまでですか。
熊手部長。
- 建設部長（熊手寛明君） 今、その検討をしております。どこからすれば一番効果的かとか、そういう部分についてはまだここでは県から聞いておりませんので。
- 委員（田中 允君） 10メートルも深くしても落差はつくんですか。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○建設部長（熊手寛明君） 水位差でやります。サイホンという、皆さん、理科の実験ですると思うんですけど、右と左の水位差があるところの下がもっと深くても水が出ていくことになります。

○委員（田中 允君） 上が高いけんね。

○建設部長（熊手寛明君） はい、そうです。

○委員（田中 允君） でも、下には常時たまっとるんじゃないですか。

○建設部長（熊手寛明君） それはそういうことですな。

○委員長（横尾秋洋君） 私は、あそこの鷺田川のほうの直角にぶつかるとるやないね。あれがぶつかると、あそこを抜いてずうっと向こうのほうの県営鷺田川のほうへくり抜いていけばいいんじゃないかなと思ひよったんやけど。

○委員（大石 泰君） 突き当たるのところは斜めに行くけん、突き当らんごととなるんじゃないですか。

○委員長（横尾秋洋君） いや、突き当らんところを下ば掘って行ってさ。

○委員（大石 泰君） よその家まで掘らないかんごとなる。

○委員（田中 允君） 今のは水道橋のところやろう。

○建設部長（熊手寛明君） ここがせき上げとって両方がぶつかって問題になっていたところなんで、このちょっと濃いブルーのところを埋めまして、こちらのほうに流すことによって水が両方から引きますんで、ここの部分の解消はされるんです。ただ、これから上がここでは解消されにくいんで、何らかの、さっき出たこんなふうな10メートルぐらいのところ掘って、どこか適当なところに出すという形になろうかと思ひます。

○委員長（横尾秋洋君） 出すとすれば、大きなところ、拡幅したところぐらいまで持っていかないと、西鉄の駅に行くところぐらいに上げたっちゃだめだということよね。

○建設部長（熊手寛明君） そうですね、大きなところまでは出すはずです。

○委員（大石 泰君） 道がこう回るとるけん、合流するじゃないですか。その先は曲がるとるじゃないですか。だから、そこでぶち当たって、今度は駅のほうに被害が出る可能性はないんですか。

○建設部長（熊手寛明君） それはございません。というのが、今、これ、半分ぐらいの河川が倍ぐらいになっています。それで既に水位が下がっていますし、ここから先については水が引き合って、今のここの浸水しとるところがあるんですけど、それも解消されるはずです。ですので、今、大石委員が心配されているこのあたりが水がつかるということ

はないと思います。

○委員（大石 泰君） そしたら、この筑紫野市ではよかばってん、太宰府とか大野城あたりが、御笠川がまだあんまり広くないけんね。大丈夫やろうか。

○委員（佐藤政志君） 移動したところは倍の広さになっているんですかね、河川は。家が立ち退いたところはなってますか。

○委員長（横尾秋洋君） 東原課長。

○河川課長（東原一広君） 今、グリーンであらわしているところが立ち退きされております。それで今、一番下流側からこの付近を2月から那珂県土のほうが約30メートルほどの、こっち側を左岸といいますけども、左岸の30メートルを工事着手しております。これからずっと拡幅していく状況になります。

○委員（大石 泰君） それともう一つさっきの確認ですけど、さっきの推進工というか、地下をいくのは高尾川から引っ張ってくるわけね。要するにそういうことですね。その場所は別としてね。

○河川課長（東原一広君） そうですね、はい。

○委員長（横尾秋洋君） 川の底をずっとはっていくんですか。それとも普通の民間の下を通っていくのか。

課長。

○河川課長（東原一広君） 現状にあります高尾川のそのカーブのとおり地下に入れる予定であります。

○委員長（横尾秋洋君） 工事は相当難しいよな。ずっと推進工事ですか。

○委員（佐藤政志君） 推進工事は動いていくけん。

○委員長（横尾秋洋君） トンネル掘ると一緒たい。

○委員（佐藤政志君） そうそう、シールドでやるから。

○建設部長（熊手寛明君） そうですね、今おっしゃるシールドという名前で。

○委員（佐藤政志君） ドームの前とか横とかやっているあれみたいに。

○委員長（横尾秋洋君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 今、シールドの話が出たけど、この地下河川の話をもっと最初に聞いたときはびっくりして、幾つかの議員さんの広報紙を見て、こんなことになるのかなと思ったんだけど、何でこんな急に地下河川という考え方になってきたのかなど。ほかにはないんですか。単純に横幅を広げたらいいんじゃないかなぐらいに思うんだけど。

○委員長（横尾秋洋君） 課長。

○河川課長（東原一広君） 福岡県知事の答弁にもありましたけども、今、被害を受けてあるところが西鉄通り付近になりますけども、拡幅するような工事計画になれば、今、その被害をこうむってある方をどこかに移転していただいて用地をいただくようになりますので、そうしたときに被害者を出すんじゃないくて、また、用地交渉にも時間がかかりますから、今、現河川の下の方にと、工法的には難しいものではありますけども、そちらを選んだほうが短期間で早く浸水被害というのを解除できるというふうな答弁がありました。

○委員（田中 允君） それはいいさ。そうでないとまた大変よ、被害者を動かすとか。地下トンネルがいいよ。

○委員長（横尾秋洋君） このメンバーじゃなかったかな、京都市の向日市に行ったときに、非常に狭いところで河川がないところで水害が発生するからということで、あそこは地下貯水場みたいなのを高いやつを盛ってどーんと通していたから、ああいうやつをイメージすればいいんやろうなと、私は思ったんやけど。

○委員（田中 允君） 5メートルと書いてあったかな。

○建設部長（熊手寛明君） 5メートルというのは直径です。

○委員（田中 允君） それだけでも大分たまるよ。

○委員（大石 泰君） でも、高尾川の浸水をするときに、二日市中学校のプールの下に、運動場のところに地下タンクをつくったやないですか。あれは何リットルやったかな、何トンやったかな。相当の数が入るやろうけど、それでも解消できんということでされるんでしょうが。あれはまだ、この前の水害のときには立証されたんですか。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○建設部長（熊手寛明君） 今おっしゃってるのは、二日市中学校のグラウンドの下に貯水槽というのをつくってます。貯水槽の目的は、一気に洪水が出るシステムとしては、水が集中するということが洪水、浸水被害の原因になってます。だから、時間をおくらせるために一時的にためるものです。それをためたとしても、今回の8月22日の雨には対応できなかつたということです。

○委員（大石 泰君） できなかつたんですか。

○建設部長（熊手寛明君） はい。

○委員（大石 泰君） ああ、そうですか。そうですよね。対応できとるならね。

○委員長（横尾秋洋君） 佐藤委員。

○委員（佐藤政志君） さっき委員長言われたように、大賀酒店の裏の橋、あれはかけかえはどげな橋になるんですか。そして、いつごろかけかえとかになるんですか。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○建設部長（熊手寛明君） それについては、今、県のほうで検討されてますんで、時期とその工法についてはまだ私どものほうには来ておりません。

○委員（佐藤政志君） 示されてないわけですね。

○建設部長（熊手寛明君） はい。

○委員（田中 允君） つかぬことをお伺いしますが、この総事業費は幾らになるとね。

○委員長（横尾秋洋君） 部長。

○建設部長（熊手寛明君） それについても、今、県のほうで詳細は検討されてますんで、私どものほうには情報として入ってません。

○委員長（横尾秋洋君） 説明でありますので、以上で終わりたいと思います。お疲れさまでした。

じゃあ、これで本日の議事は終了しました。2日分全て終わりましたので、これをもちまして建設環境常任委員会を散会します。お疲れさまでした。

閉会 午後4時55分